



三本木高校 57年卒業

氏名 高谷和広  
現住所 上北郡六ヶ所村  
職業 会社員(大栄工業)

### 三本木高校空手部

高校時代を振り返って特に思い出されるのが入部した頃の事です。初めて先輩方の練習風景を見た時は、本当に驚きました。それまでの私は空手とかその種の物には、全く縁がなかった。先輩方の一挙手一投足に常人には無い何か恐怖の様な物を感じました。

一年生の最初の練習は、その場でひたすら突く事でした。私はあまり勘のいい方では無かった。同期でも経験のあった者は、既に移動稽古や連続技の練習に参加していたので、それがとても羨ましくなりません。それから暫くして私も同じ様な練習に入りましたが、連続技の時などは、他の部員とは踏みみや、突きの速さがその比では無かった。ので列から一歩遅れて、ついて行くのがやっとなりました。ですから初めて試合に出た時は、

ポイントよりも、とにかく前に出るしかありませんでした。当然一回戦で敗けたと思いましたが定かではありません。それでも先生が組手の事で二つ教えてくれた内の一つは守ったつもりでいます。その二つとは「組手では絶対後へ下がらない事」と「組手ではドラマチックに戦う事」でした。後者は人によっていろんな受取り方がありますが、私は自分が上段者にでもなった気で、相手の流れや攻め時などを色々考えて、それからの試合に臨みました。すると辛いはずの練習や試合が意外とおもしろくなり、事もあろうに東北大会で優勝しておりました。その上決勝の相手が同校の浜中だったので、私は高校時代を最後まで楽しく、そしてドラマチックに過す事が出来ました。



三本木高校 57年卒業  
氏名 田中徹  
現住所 和田市前山5-102  
職業 消防組合田地区消防事務部

### 空手バカ一代

家の近くの体育館で高総体の空手の試合が

あるというので会場へ足を運んだ。日頃仕事に追われ、ろくに先輩の応援にも行くことがなかった私が空手の試合会場に行くのは久々のことであった。会場に近づくと、気合いとホイッスル、歓声が外に響きわたり、空手の試合会場特有の緊張感が漂っていた。応援の人込みをかき分けていくと、純白の空手衣を身にまとい、必死の攻防を繰り広げている二人の少年の姿があった。

私が彼らと同じように母校の名を胸に記した道衣で、高校生活最後の試合を戦ったのがちょうど十一年前のこの季節であった。

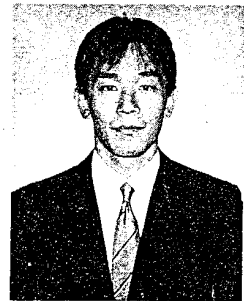
空手の劇画で、その強さに魅了され、道場の門を叩いたのが中二の春、週三回の道場通いが始まった。手にできた拳ダコを眺めては自己陶醉し、書店に行けば「空手」の文字が載っている書籍を貪るように読んでいた空手少年が、その後高校において空手道部に入部しないはずがなかった。

敵のカウンターの突きで肋骨をやられながらも、バカの一つ覚えの左上段突きを滅多やたらと繰り出して勝ち取った、三年の春季大会での銅メダル。個人戦で一・二・三位を独占しながら最後まで優勝の日の目を見なかつ

た団体戦。「空手」の枠を超え、在学中はもとより後の人生において多大な恩恵を受けることになった良き師、そして生涯の友との出会い。勝利と敗北を共に味わうことにより得ることのできた、強固に結ばれた同志との連帯感。忘れ得ぬ数々の思いがある。

私には前歯がない。そのどれもが空手の稽古により失われたものだ。大学四年間も空手道部に在籍し、大きなタイトルも得ることができず、もちろん「牛殺し」の域まで達することができなかった。しかし、私が、前歯の代償として空手から得たものはあまりにも大きい。

空手の現役を退いて六年経った。その今でも時々鏡に向かって左の上段突きをきめている自分に気が付く。中年体型になりかかった男のその仕草が滑稽なのか、妻は、いつも半ば呆れ顔で私を見ている。しかし私はいつも心の中でつぶやいている。これは、かつて三本木高等学校空手道部で培われた熱い空手魂が、今なお脈々と我が身に流れ続けている証なのだ。



青森北高校 59年卒業

氏名 岡 一 仁

現住所 青森市旭町1-7  
13-7

職業 野辺地高校横浜分校教諭

### 私の空手道

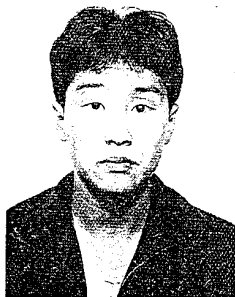
私は小学校三年生に空手道を始め、小学校、中学校と道場で練習し、青森北高校に進学しました。その頃の先輩はとも強く、2年上の先輩は高校総体で団体優勝し、1年上の先輩も高校総体で団体優勝を成し遂げました。私に於いても団体優勝を成し遂げました。私達に係ってくるプレッシャーは年々大きなものになりました。

58年高校総体、今でも忘れることはありません。準決勝で三本木高校と対戦し、私は先鋒で山田と戦い、3-2で敗れました。あの時私は、団体戦ということを忘れ、個人的な感情で勝負にでてしまいました。その後、個人戦の決勝で再度彼と対戦し、私は高校総体で個人優勝することができました。その時は、仲間に申し訳ない気持ちで一杯でした。この後の大きな大会で勝つことが、仲間に対

して報いることになるのではないかと思いましたが。その後、東北大会に出場し、個人優勝した時仲間が、「岡、おめでとう。一緒に練習していたことが自慢できるよ。」と言ってくれたのを覚えています。

空手道をとおして沢山のことを学びました。またこれからも学ばなくてはならないと思っています。これまで空手道が続けることができたのは、良い先輩、良い仲間、そして何より、良き指導者に恵まれたからではないかなと思っています。これまで指導いただいた先生、先輩方に対しては感謝の気持ちで一杯です。ありがとうございます。

青森県の空手道が、今後益々発展することを心からお祈りいたしたいと思えます。



三本木高校 59年卒業

氏名 山田 和彦

現住所 青森市石江高間  
104-70

職業 ㈱花王

### 高校総体の思い出

三年間の高校生活の中で、高校生が自分の意志で、苦しさに向かっていく事が何度ある

だろう。

私が、自分の体験から思い返してみても、その数は、極めて少ないような気がします。

数少ないそう思う思い出の中にあつて、高校総体の、一カ月前というのは、強い意志を持って、厳しい練習を自分で望んだのを覚えていています。

授業が終わるのを待ち望み、とは言っても寝ている時間の方が多かったと思いますが、とにかく体育館に直行、三年間共にしてきた同期部員と、一つの目標に向けて、流した汗は、今でも鮮明に覚えています。そして、その場面は、一つ一つ心に残っています。

結果は、たとえば、思いもよらぬ、決勝戦敗退と言う、これもまた、ドラマチックな幕切れでした。

しかし、今考えてみると、高校生のクラブ活動というものは、結果も大切ですが、その前の過程によって、一人一人の心に残るかどうかが、決まってくると思います。

これからも、沢山のこうした思い出が生まれると思います。そして、一つでも多くの思い出のために、側面から援助して行きたいと思うと共に、高空連の益々の発展を期待して

います。



七戸高校 60年卒業

氏名 竹内 淳 子  
現住所 東京都港区高輪 2-1-55  
職業 スマイル美容師

### 空手と私

高校での三年間、まさに楽しく空手道部生活を活かして過ごさせていただきました。入部して初の新人戦で優勝。それからは春季や総体でも残ることが出来、大会のおかげで東北だけでなく東京や神戸など色々な土地を訪れることが出来ました。またその時一緒に青森県代表で行った多くの仲間達とのふれ合い。それぞれ先輩、同級生、後輩だったけど一緒に稽古したり、観光したり、同室だったり。本当に楽しい思い出をしていましたしそれが楽しみで稽古していたような気がします。至って気楽な部員でした。

そんな中で一番印象的なのは最後のインターハイに団体戦で出場できたことです。やっとみんなで行ける！みんなの気持ちが一丸となって頑張った三年の夏でした。

卒業と同時に空手は止めてしまいましたが大

時々帰省すると空手部を覗きに行ったり、大会に顔を出したりもしました。そんな時、どこの学校の先生や仲間と会うと本当に懐かしくて嬉しいものです。そうやって、いつ行っても知ってる人がいて、知っててくれる人がいるということはとても幸せです。私は空手という部活を通して多くの人と知り合い、交流を深められたということにも感謝しています。今はほとんど会うことはありませんが、いつかまたみんなで会えたらいいと思います。私は現在床屋さんですが、朝と夜はフィットネスクラブに通う毎日です。今はボ

ディビルダーになるべくウエイトトレーニングに励んでいます。これからの私に注目！！立派なビルダー目指して頑張ります。！



光星学院高校 60年卒業 齊

氏名 品田 齊  
住所 三沢市  
職業 University of Toronto Canada

### 『スウィート・メモリーズ』

いれたてのコーヒを口にしせず冷ましてし

まうのも珍しい事ではない。既に過去の事実となってしまう十年前の記憶、それがリアルタイムで、まるで現在の自分とは程遠い容姿を駆使して活発に動き回る。TV画面に釘付けになるといふより、むしろ脳の奥から蘇える当時の興奮を、まばたきせずにブラウン管に投影している様である。鑑賞するという次元を越え、病的でさえある。

学生時代に、私の数々の空手道に於ける戦績を収めたビデオテープの数は百本を越える。それら全てが各々違ったフィーリングを持っているので、観る度にその時期に纏わる様々な想い出に耽ってしまう。実際、当時の仲間達と鑑賞(?)すると、試合そのものよりも舞台裏の話で盛り上がってしまうのが通例なのだから。

私にとって高校時代の空手道人生は、今思えば古き良き時代であった。はたから見れば、空手以外の事には何の興味も示さないかのように、ただひたすらそれに打ち込んでいれば良かった。だから髪の毛も3センチ以上伸びた事は無かったし、クラスメートの胸躍るような放課後の企画にも参加する事はなかった。毎日のように口紅を施した様な唇に震え、

無意識のうちに出来た巨大なアザに思考が止まりそうにもなった。ケガのせいで味わって食べるといふ権利を奪われ、時には食べるといふ手段さえ失われる事もあった。

そんな灰色を帯びた事実も、表彰台で金メダルを掲げた自分を見ていると、全てが報われた様な気持ちにさえなってしまうものだ。

10年という歳月は殆ど永遠と言っている。人は成長するし、世の中も変わる。かつては第一線を歩んでいた自分も、今では一年ぶりに再会した見知らぬ後輩の世話を焼きたくなる年齢である。

しかし、この気が遠くなりそうな月日の中で、光星学院空手道部の空手界に於けるネームバリューは全国的にも今なお健在である。

「日本一」を目標に掲げ、その悲願を達成した自分達から、さらに幾度か同じ栄誉を母校にもたらした後輩達まで、そして、選手と共に闘った部員一同、御指導下さった先生方。一代に渡って輝き続けた歴史の中で、こんなにも多くの豊潤たる生命が燃えていたのである。そしてこれからも、多くの若者達が栄光を追いかけ、空手道部の歴史に青春を刻み、そしていつの日か、心の奥にしまっていた

本の、その黄ばんだページから蘇える想い出の日々に胸を熱くすることであろう。

再生ボタンを押すと、再び若く逞しき自分が現れた。「彼」は、膨大なエナジーを発しながらもなお吸収している。私はそれを目を細めて見つめながら、もはや得る事のない何かを引き出そうとするのである。



### 空手に出会えて

二十周年おめでとうございます。

私は、今コンピュータの仕事をしています。

もう空手とは、縁遠くなっています。機会があったら、また始めたいと思っています。

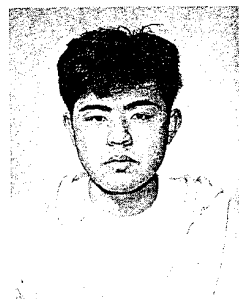
私が空手を始めたのは、高校に入ってからで、その頃、映画やテレビで、格闘技が流行っていたので、それらに影響され自分も強い人間になりたいと思い始めました。初めは、本当に強くなりたい一心で練習に励んでいましたが、だんだん強くなっていくうちに目標が

三本木高校 61年卒業  
氏名 野田 政 喜  
現住所 神奈川県秦野市  
職業 日産コンピュータテクノロジ

でき県で優勝したいと思いはじめました。小井川先生や先輩の御指導、自分でも、学校まで片道20kmを自転車を通ったり、朝早く学校に行ってウエイト・トレーニングをしたりしていました。その努力が実って、新人戦では2位、高総体では、優勝することができ、武道館や国体やインターハイに出場する事ができました。国体では、鳥取県、インターハイでは、沖縄県に行きました。武道館での試合では、一回戦で反則敗けになった事や、インターハイでは、5位になった事、他にも楽しかった出来事が思い出されます。そして、一番楽しかったのは、合宿でした。今でも、空手道部で集まって話す事は、合宿での話が多いです。

私は、大学を経済的事情により、自分で働いて学費、生活費を稼がなければならなかったのですが、一年も留年する事なく無事に卒業できました。これも空手で得た強い精神力のおかげだと思っています。

私は、高校で空手に出会って本当に充実した高校生活を送れたと思っています。



浪岡高等学校 62年卒業

氏名 須藤庄平  
現住所 南津軽郡浪岡町  
職業 会社員 (中村弘前 株)

### 私と空手道

高校三年間の思い出で、一番頭の中に残っているのは、部活動の事です。私は、浪岡高校で、三年間を通して空手道部に所属していました。

私は、夜暗くなってからの練習が好きでした。それは、暗くなると、窓ガラスが鏡の役割をするからです。いつも窓ガラスの方を向いて、練習に励みました。

その甲斐あって、三年の時は、団体組手、全国大会三位。個人型、東北大会六位と、納得できる成績につながりました。兄止彦も又、浪岡高校空手道部員として昭和五十六年度全国空手道選抜大会に個人型三位と入賞しました。兄弟共々思い出多い高校生活でした。

その当時から、私は『努力』という言葉が好きになりました。とてもありふれている言葉なのですが、高校三年間、部活動を通じて

この言葉を身をもって感じたのです。

高校卒業後、短大を出て、今は弘前市の北和徳工業団地内の『中村弘前(株)』という会社で、公園施設の設計の仕事をしています。

二年前に、椎間板ヘルニアの手術を受けました。「高校時代の空手が原因では？」と、担当医に言われました。が、後悔は全然していません。むしろ『努力』という言葉を学び有難いと思っています。それからは、空手に触れる機会はありませんが、『努力』という言葉を忘れずに、生きて行きたいと思えます。背中にある手術の跡や、残業中の窓ガラスを見る度に、高校三年間の空手道の思い出がよみがえってくる今日、この頃です。



光星高校 62年卒業

氏名 迫 祐子  
現住所 青森県八戸市  
職業 教諭 (光星学院高等学校)

### 空手道十五年

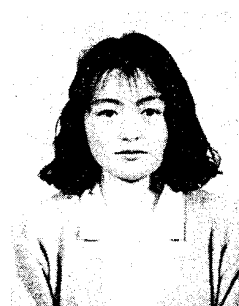
小学3年生の時に、弟と共に三沢市空手協会の道場へ連れられて行ったのが、私と空手道との出会いでした。それから、もう15年に

なります。改めて振り返ってみると、私が空

手道を通じて得たものが数多くあることに自分でも驚いています。すばらしい指導者に恵まれ、インターハイをはじめ全日本、世界大会等に優勝し、苦楽を共にした先輩や多くの仲間とも出会うことが出来ました。空手道は平凡な生活で終わっていたかもしれない私に、すばらしい経験を与えてくれたのです。空手道との出会いとこんな私を支えてくださった方々に深く感謝いたします。

私がこれまでの中で、まず一番に思い出されるのが高校時代のことです。初めて先生と組手をした時、怖くて泣いてしまったことや、朝練で階段ダッシュをした蕪島での厳しいトレーニング等、いろんなことがありました。あの厳しい練習があったからこそ、今の自分があり、思い出として残っているんだなあと今では、なつかしく感じています。

今年から、母校である光星学院高校にて、教師という立場から携わることになったのですが、この思い出深い場所で教える子達に、苦しい練習や勝つ喜びを味わせてあげたいと思います。そしてこの光星学院高校空手道部に誇りが持てるような指導が出来るよう日々精



弘前聖愛高校 63年卒業

氏名 土岐 歩

現住所 弘前市野中3の2の6

職業 学生

### ……空手道を学んで……

血の出るような練習、この一言が全てを語るにふさわしい高校時代でした。監督を父として師を父として、何があっても弱音を吐くことが許されないような気持ちは、誰に理解を求めても容易に理解をして貰うことのできないものでした。誰よりも先に道場に出て、誰よりも後から道場から出る。仲間が帰ってからも型の練習に時間をかける。

私の場合は、他の仲間とは異なり至上命令の課題が出されているような圧迫との戦いでした。親子で空手をすることは、周囲から見

れば興味のあることであり、そのような視線との戦いも常のことでした。しかし、指示された練習はいっば一歩と確実に技術が体に入っていく手応えは嬉しいものがあり、勝つ事を意識した練習には自分なりにのめり込む事も

ありました。

また、現実の父の働く姿を通じて、考えさせられることも多く、父の背が目がだまって語りかけている事を受け止められるようになってしたのは幸せだったと思う最近です。思い出を語るとすれば、県大会で優勝を逃し、東北大会で勝った喜びです。また、群馬での全国大会出場は、同じ学年のチームメイトとでかけた時のこと、そして札幌の全国大会出場となりますが、三年間の空手道部での生活があったからこそ、私の留学の希望を黙って認めてもらったものと思っています。いま、空手からは疎遠にはなったものの、教育者として教壇にたつようになったら、きっと空手道の魅力を語れる事と思っています。私が歩いた道は決して間違っていないかった事を最後に述べさせて戴き、後輩の皆さんの励みにして戴ければ幸いです。